

登録コード	E2177900	開講年度	2026			
授業科目	経済学				担当教員	藤崎 聖也
英文授業名	Economics II				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限	対象学生
講義室	教育N202講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				【達成目標】発展的な経済学の考え方を使って、公教育である高校公民科（中学校社会科も視野に）で扱うことも視野に入れながら社会現象をより幅広く吟味できるようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				【達成目標】高校公民科（中学校社会科も視野に）における経済教育の背景にある、マクロ経済学を中心とした発展的な知識を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	1 マクロ経済学を中心とした経済理論をより詳しく見ていく。 2 1の類題・関係資料について個人またはグループで、授業時間内外で検討する。					
(5)授業計画	* 内容や順序を変更する可能性はある。 * 教育実習の為に欠席した学生の補講方法：補講を実施するか個別に質問に応じるかは、当該学生の人数や事情に応じて検討するが、いずれにしてもそれを理由にした欠席での理解差は最小限にすることを旨とする。 * 原則として現地開講だが、ビデオ会議システムを併用する場合あり。日程・行事など諸事情を勘案して判断するため、具体的にいつになるかを現時点で言明することは難しいが、多くても3回程度。併用時は1週間前までに受講生に予告する。 第1回：フローとストック 第2回：消費理論 第3回：投資理論 第4回：所得概念、物価指数 第5回：経済成長理論 第6回：貨幣需要 第7回：貨幣供給（金融政策） 第8回：財政政策 第9回：中間振り返り 第10回：国内マクロ経済分析（1）一般的枠組み 第11回：国内マクロ経済分析（2）具体例と含意 第12回：雇用とインフレーション 第13回：国際金融 第14回：国際マクロ経済分析（最後15分間は授業アンケートを実施） 期末演習					
(6)成績評価の方法	1）期末演習（45点）：達成目標、の到達度を測る 授業資料等を閲覧しながら、指定期間中に取組み提出。 2）授業内外での演習（45点）：達成目標、の到達度を測り、向上させる 3）授業ふりかえり点（10点）：達成目標、の到達度を測る 感想・意見・質問などを授業毎に書くシートを利用。欠席（もしくは出席していても取り組みが不十分）により1回あたり最大2点減点。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	1）期末演習 （）授業内容に沿った基本問題、（）授業内容を別視点で考えさせる応用問題 （）を多く解ければ「水準にある」、それを満たした上で、 （）を少しでも解ければ「やや上にある」、 （）を半分程度解ければ「かなり上にある」、 （）を多く解ければ「卓越している」 2）授業内外での演習 各課題について、以下の観点で評価して合計する。 （）考えようとする意思が記述からうかがえる、（）授業内容を活かした手法で取り組んでいる、					

(7)成績評価の基準	() 帰結と手法が整合的である。これらについて、 1つ優れていれば「水準にある」， 2つ優れていれば「やや上にある」， 3つ優れていれば「かなり上にある」， 3つ優れていてかつ興味深い視点を提示すれば「卓越している」 3) 授業ふりかえり点 各回の出席の証として、シートに当該授業に関連した感想・意見・質問などを書く。 10回できれば「水準にある」， 11回できれば「やや上にある」， 12回できれば「かなり上にある」， 13回以上できれば「卓越している」 * 上記は1つの目安であり、総合的な内容を鑑みて評価することに御留意頂きたい。
(8)事前事後学習の内容	この授業は90時間の学修を必要とし、60時間以上の時間外学習が求められる。 【事前】次回扱う予定の問題及び関連資料を予め配布するので、目を通し可能な範囲で考えておく。 【事後】課題に取り組んだり、資料を振り返ったりして、授業で説明された内容を再度確認しておく。 (主に)中学校、高校の教科書の経済関連箇所を、本授業の内容と突き合わせて検討してみるのもよい。 【事前・事後共通】必要があれば随時質問する(メール、研究室訪問など)。
(9)履修上の注意	1. 内容(用いる分析手法)は「経済学基礎」に比して高度。 2. 他の学生に配慮した態度をとるよう努める。例えば、講義に関係ない話を大声でしないことや、携帯電話(スマホ)の音量を極力小さくすることなどが挙げられる。 3. オンラインツールを使いながら演習を進めるので、パソコンなどを用意して授業に臨むこと。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	○ オフィスアワー：M 2 0 9 研究室。平日は随時。面会を確実にしたい場合、下記に事前連絡を。 ○ 連絡先：内線 = 4 0 9 6、メール = fujisaki[at]shinshu-u.ac.jp ([at]は@に)
【教科書】	指定しない
【参考文献】	指定しない